


<h1>指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 令和2年4月発行</p>	<h2>家庭科・技術・家庭(家庭分野) 第48号</h2>		
	対象 校種	中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校	

幼児も高校生も笑顔あふれる触れ合い交流
— 乳幼児触れ合い体験の効果的な進め方について —

子供を生み育てることの意義や、家庭の大切さを理解するために、高等学校家庭科では新学習指導要領（平成30年告示）において保育領域の充実が示され、「乳幼児触れ合い体験」が推進されている。そこで、高等学校における触れ合い体験の進め方について提案する。

1 「乳幼児触れ合い体験」推進の背景

近年、家庭や地域において子供と触れ合う機会が減り、特に乳幼児と触れ合う経験がないまま親となることや、児童虐待の増加などから親教育の必要性が求められている。中高生を対象に、子供と触れ合う機会の有無別に子供を持つことに対するイメージを聞いたところ、「子供を育てたい」と思う割合について、触れ合う機会がある人は51.5%であるのに対して、機会がない人は34.1%と有意な差が見られた。また、「自分の子供はかわいいと思う」割合は、触れ合う機会がある人は53.7%、機会がない人は41.1%となっている。これらの結果から、子供にふれあう機会がない人は、子供や子育てについてネガティブな傾向がみられると推察できる（図1）。

子供との触れ合いの実態調査結果によると、「小さな子どもと触れ合う機会がない」と答えた中高生は72.7%にのぼっている。一方、触れ合う機会をみると中高生全体で「学校の授業や行事」が最も多く、学校の授業や行事が小さな子供と触れ合う重要な機会であることがうかがえる（図2）。

このような背景を踏まえ、平成27年に閣議決定された少子化社会対策大綱においては、子育てに対する理解を広める取組を推進することとし、学校・家庭・地域における乳幼児触れ合い体験等推進のため、様々な施策が制定されている。

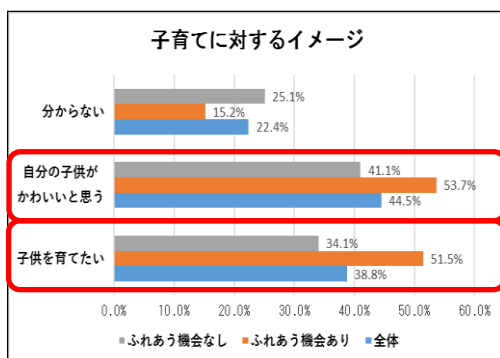


図1 子育て支援等に関する調査2014（中高生意識調査）三菱UFJリサーチ&コンサルティングより作成

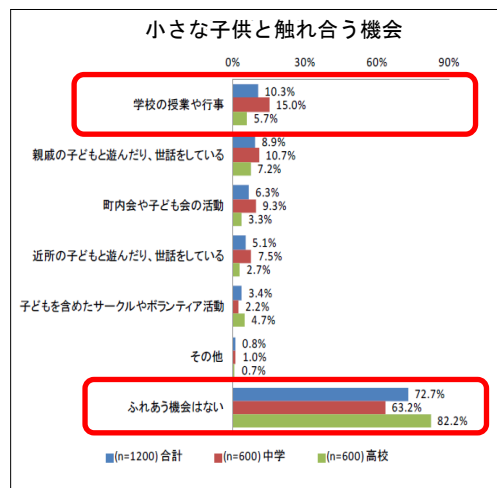


図2 子育て支援等に関する調査2014（中高生意識調査）三菱UFJリサーチ&コンサルティング

施策等の名称及び関連する内容
【次世代育成支援対策推進法】 （平成15年） 地方自治体は「次世代育成支援対策」を定め、中高生の乳幼児触れ合い体験の推進を盛り込む。
【乳幼児触れ合い体験の推進について（事務連絡）】 （平成29年） 内閣府、文部科学省、厚生労働省の関係部局連名で、乳幼児触れ合い体験の積極的な実施について依頼
【保育所保育指針解説】 （2018年）第3章3(2)ア地域の関係機関等との連携 （略）小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児とのふれあい交流や保育体験に保育所が協力するなど、次世代育成支援の観点から、将来に向けて地域の子育て力の向上につながるような支援を展開していくことが求められている。

そこで、ページより高等学校触れ合い体験の進め方について提案する。

2 幼児を高校に招いて行う触れ合い体験について

(1) 幼児を高校に招いて行う触れ合い体験の特徴

保育施設等を訪問して触れ合い体験を実施する場合、以下のような課題が考えられる。

- ・ **実習先の確保**：1クラス単位で受け入れてくれる実習先が少ない。
- ・ **移動手段の確保**：学校近隣に保育所等の施設がなく、移動の手段がない。
- ・ **授業時間の確保**：実習時間に加え、移動時間も必要となり時間割等の変更が必要。

これらの課題を解消するため、園児を高校に招いて行う触れ合い体験が考えられる。

《園児を高校に招いて行う触れ合い体験の特徴》

- ・ **高校生の受け入れ人数の制限がない。**
→ 実習先に依頼しやすい。幼児1人に対して高校生1～2人を組み合わせる。
- ・ **高校生の移動が不要になる。**
→ 送迎用のバスを有する保育施設が多く、園児の移動が安全にできる。
→ 授業時間に合わせて来校してもらうことで、通常の時間割で対応できる。
- ・ **高校の物的資源を活用し、多様な体験学習が可能になる。**
→ 体育館や被服実習室、調理実習室などを活用し、保育施設では体験できない活動が可能になる。
- ・ **保育に適した環境づくりについて考える機会となる。**
→ 保育者として幼児に配慮した環境について考える機会となる。
- ・ **園児が来校することで、実習に直接参加しない生徒たちの観察の機会となる。**
→ 幼児に接する機会が少ない高校生にとって、来校時や校内移動の際に、幼児を観察する機会となる。

(2) 園児を高校に招いて行う触れ合い体験の取組例【家庭基礎（保育領域：11時間）】

目的	<p>幼児を高校に招いて触れ合い活動を行うことを通して、保育の意義について考え、幼児の特性に気付き、保育者として適切に関わる姿勢を養う。また、触れ合い活動の企画や運営を通じて、主体性を身に付けさせる。</p>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成遊び：折り紙を用いた平面構成 等 ・ 運動遊び：リズム運動、リレー、鬼ごっこ 等 ・ 受容遊び：絵本の読み聞かせ 等 <p>《POINT》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの活動（遊び）の設定時間は、幼児の負担にならないよう20分程度とし、1単位時間あたり2つ程度の活動を設定しておくことよ。 ・ 実習先との十分な事前打ち合わせを行い、内容を決定する。この際、保育施設の行事予定等も参考にして活動内容を設定するとよい
事前の指導内容（157/11時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活【知識及び技能】 ・ 子供の遊びと表現活動について【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】 <p>《POINT》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせ等を行う際は、司書や外部講師を活用した事前指導も考えられる。また、自作の絵本を事前に製作し、活用することもできる。 <p>外部講師による講話 （絵本の読み聞かせ方法）</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者としての適切な関わり方について【学びに向かう力、人間性等】 <p>《POINT》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階を考慮した活動内容を協働して考えさせるなど、主体的に取り組む場面を多く設定する。 ・ 任領域との関連を図り、保育者の視点で安全性に配慮した空間について考えさせる。 ・ ワークシートに、体験学習に向けて各自の具体的な目標を記入させる（事後の反省・感想も記入できるように工夫する）。 <p>高校生による手作り絵本</p> 

■ 園児のお迎え, 会場準備

<<POINT>>

- ・ 多くの保育施設では、午睡の時間を設けているため、実習は午前中が望ましい。
- ・ お迎え (誘導) 係以外の生徒により準備を行う。

■ 対面式, オリエンテーション

<<POINT>>

- ・ 対面式の進行, 運営等は生徒が行う。幼児に分かりやすい説明を心掛けさせる。
- ・ 緊張をほぐすために、オリエンテーションでは、じゃんけん鬼や手遊びなどを取り入れるとよい。

■ 活動① (構成遊び)

<<POINT>>

- ・ 幼児が使用可能な道具 (例: はさみ, 微細なパーツ) や, 製作にかかる費用について実習先と十分な打ち合わせを行う。
- ・ 事前にリハーサルを行い, 保育者の視点で幼児が達成感を味わうことができるような支援を行わせる。



■ 移動, トイレ休憩

<<POINT>>

- ・ 会場を変えることで, 活動①から活動②にスムーズに移行できる。
- ・ 構成遊びの進捗状況に応じた調整時間に充てる。

■ 活動② (運動遊び)

<<POINT>>

- ・ 「ペンギン歩き」などのスキンシップを伴う運動遊びや, 「高校生と幼児との混合リレー」などルールに則った運動遊びなどを複数取り入れる。
- ・ 実習先の行事等で取り入れているリズム体操などを一緒に行う活動も考えられる。
- ・ 安全面に配慮し体育館や武道館, グラウンドなどの学校施設を有効に活用する。



■ 園児の見送り, 後片付け

<<POINT>>

- ・ 次時の授業に速やかに取り組めるように事前に指導をしておく。

・ 触れ合い体験の感想・評価
【思考力, 判断力, 表現力等】

<<POINT>>

- ・ 事前に設定した目標に対して自己評価させる。また感想や気付きを発表し合い, 学びを共有できる機会を設ける。

・ 親の役割と保育
・ 子供を取り巻く社会環境
【知識及び技能】
【学びに向かう力, 人間性等】

<<POINT>>

- ・ 実践的・体験的活動を経て育成された「保育者としての視点」をもって学習に向かうことで深い学びにつながる。

□ 事前準備で気づいたこと

- ・ 背の低い幼児のために, 机の位置を低くしていた
- ・ おりがみが個々に与えられていた

□ 絵本を作成した際に注意したこと

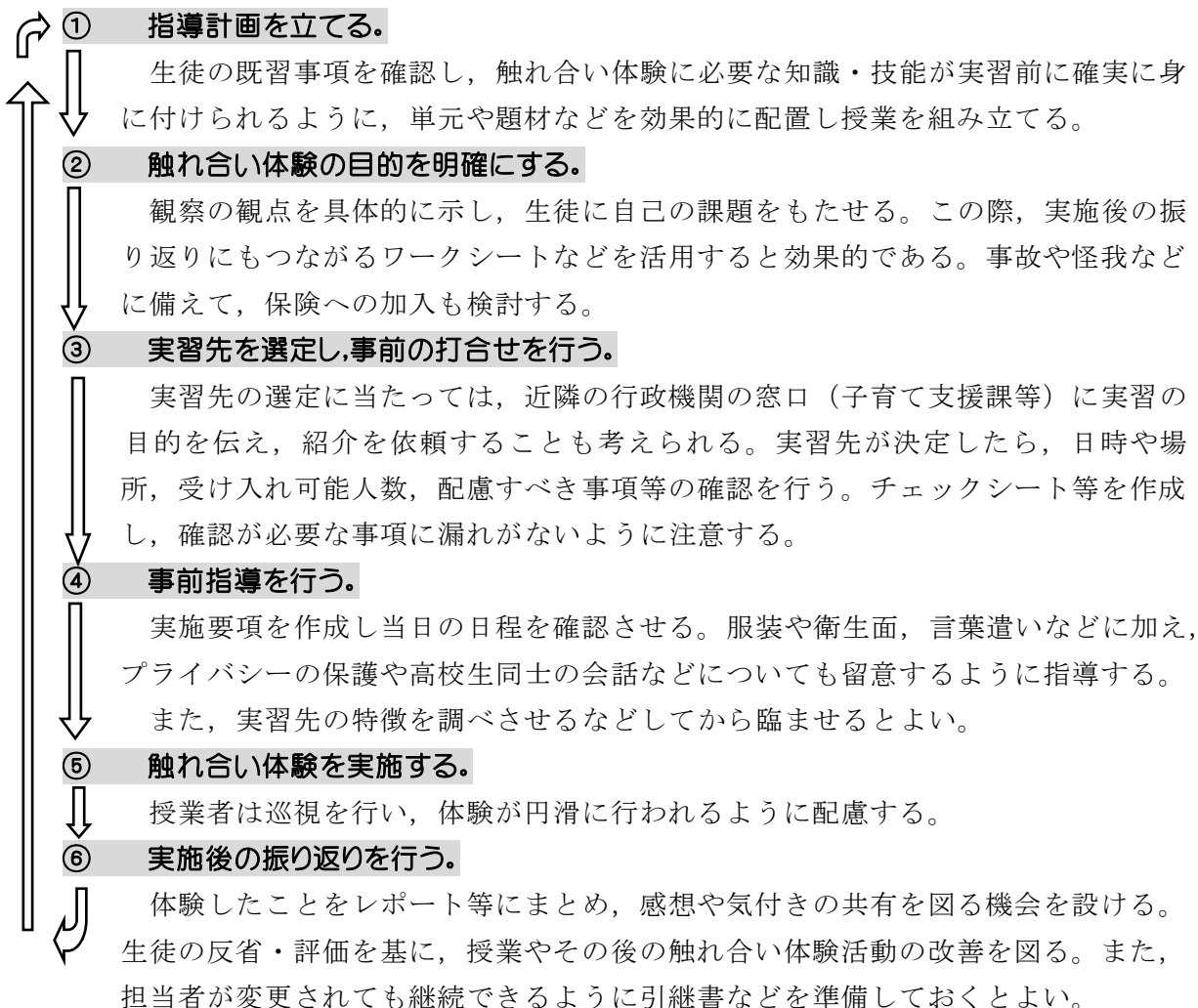
- ・ 全部の絵本に描かないで, おりがみを使う場面も入れた。
- ・ 楽しい絵本にした。

□ 交流会の感想

この交流会の話を聞いた時から, とても楽しみにしていました。実行委員としても働き, 当日は不安でしたが, わたしは幼稚園生の姿を見たので, 一層やる気が出ました。私は実行委員だったので, たくさんの園児の姿を見ましたが, 元気がたくさんおしゃべりする姿, 落ちている子, 最初は静かだったけれど慣れると, 突如たてさんおしゃべりする姿など, 1人1人個性があり, 保育の楽しさを感じました。またおじいちゃん, 男の子が特に盛り上がり, とても力強く投げました。絵本は好きな子と, 苦手が多かったのに, 苦手を子にはアンパンマンをまわすもかいました。なのでたくさん準備してよかったな。と思いました。

3 触れ合い体験の実施の流れ

触れ合い体験を、円滑に実施するために効果的な学習にするために、次のような流れが考えられる。



《上記①～⑥の過程における、指導上の留意点》

・ **カリキュラム・マネジメントの視点** (①, ②, ⑤, ⑥)

- 《POINT》
- ・ 教科横断的な視点を持ち、学校行事や他教科との関連を図る。
 - ・ 教育目標実現に向けて、地域の人的・物的資源を効果的に活用する。

・ **安全教育の視点** (①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥)

- 《POINT》
- ・ 事前に乳幼児の身体的特徴を理解させ、安全性に配慮した実習環境等を整える。
 - ・ 実習中の不測の事態に備え、緊急時の対応等について、実習先及び校内で打合せておく。

・ **言語活動の充実の視点** (②, ④, ⑤, ⑥)

- 《POINT》
- ・ 実習後のレポートを基に意見交換を行うことにより互いの考えを深めることができる。
 - ・ ICT機器を活用したプレゼンテーションを行うなど、表現力の向上にもつなげるとよい。

4 おわりに

乳幼児との触れ合い体験による教育効果は非常に大きい。保育体験学習が効果的に行われるよう、学校や地域の実態に応じた様々な工夫に期待したい。

- 引用・参考文献 -

○ 文部科学省『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』平成29年

○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説家庭編』平成30年

○ 実教出版株式会社「子どもの発達と保育」平成30年

(教職研修課 税所 篤代)